

令和８年度第２回広島市公立大学法人評価委員会 会議要旨

1 開催日時

令和８年７月２９日（水） ９：４０～１１：４０

2 開催場所

広島市立大学大会議室

3 出席者

(1) 委員

酒井委員（委員長）、仮井委員、橋本委員、長井委員、深見委員

(2) 公立大学法人広島市立大学（令和７年度業務実績の評価に入る前に退席）

前田理事長（学長）、永山理事（副学長）、卜部理事（副学長）、金森理事（事務局長）、事務局次長（事）企画室長

(3) 事務局

行政経営部長、行政経営課長

4 議事

(1) 令和７年度における業務実績に関する評価について

(2) 第３期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価について

5 公開・非公開の別

一部非公開

6 傍聴人の人数

０名

7 会議資料名

(1) 資料１ 広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(2) 資料２ 令和７年度における業務実績に係る評価委員会委員からの質問に対する回答について

(3) 資料３ 令和７年度における業務実績に関する項目別評価表（総括表）

(4) 資料４ 令和７年度における業務実績に関する評価表（小項目・大項目評価）

(5) 資料５ 令和７年度における業務実績に関する評価表（全体評価）

(6) 資料６ 第３期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する項目別評価表（総括表）

(7) 資料７ 第３期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価表（小項目・大項目評価）

(8) 資料８ 第３期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価表（全体評価）

(9) 参考資料１ 公立大学法人広島市立大学の中期目標期間（令和４年度から令和９年度まで）における各事業年度の業務実績の評価について

(10) 参考資料２ 公立大学法人広島市立大学の第３期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績の評価方法について

(11) 参考資料３ 関連法令

8 議事の概要

(1) 議事 1 について

令和 7 年度における業務実績に関する評価を「A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。」と決定した。

(2) 議事 2 について

第 3 期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価を「A：法人の業務は、中期目標の達成に向けて順調に実施されている。」と決定した。

9 発言要旨

(1) 議事 1 について

ア 各項目の評価について

(7) 小項目⑧「研究活動の活性化」について

(酒井委員長)

- ・ 科研費の申請を促す様々な措置を講じられた結果として申請率が順調に伸びているということで、その後押しをするという意味では「S」評価でもよいのではないかと思った。他の「A」評価の項目よりはもう少し評価できると思った。

(深見委員)

- ・ 私も努力は認めている。特に情報科学部では申請率 100%ということで、とても努力していると感じている。ただし、他の学部は、なかなか科研費となじまない部分もあるかとも思うが、実績としてもう少し伸びてもらいたいという思いがあり、「A」評価止まりだと感じた。大型の研究費を獲得できる教員が出てきたということで、情報科学部もまだまだ研究費を獲得できる余地はあるかと思うので、そこができるようになれば「S」評価だという気持ちだ。

(橋本委員)

- ・ 芸術学部は、評価の軸がなかなか難しい。例えば、出展数だとか、何かの展覧会で出品したとか、そういう軸があるともう少し評価ができるかと思う。

(酒井委員長)

- ・ どうしても金額や件数という数字上で評価をしてしまうが、そこでは測れないようなものも当然にあるかと思うので、その辺りの評価をどうするのかは今後の課題となるかと思う。
- ・ では、小項目⑧については「A」評価としてよいか。【異議なし】

(4) 小項目⑬「国際交流の推進」について

(酒井委員長)

- ・ 短期留学の数が若干減っているという部分でこれから改善の余地があるかと思い、「B」評価とした。
- ・ 「物価高騰により参加費が高額となった影響や実施時期の調整のためフランス及び中国への短期プログラムは中止した」とある。なぜフランスと中国の短期留学プログラムだけが中止となるのか、また当該プログラムが元々の程度の規模だったのかが分からないが、対策を講じる必要はあるかと思う。物価高騰などはどの大学も苦労しているところなので、そこは大学側としても参加費に対するサポート等の対策できる可能性はあるかと思う。

(仮井委員)

- ・ 昨今の海外渡航の問題でいうと、物価高騰等もあるが、安全面の問題もあると思う。学生のマインドとしても落ちているのではないか。

(橋本委員)

- ・ 私の大学でも、物価高騰等の影響で留学する学生数は減少している。そのため、大学としても寄附金を集めたりという努力はしているが、それでも厳しいというのはある。
- ・ 一方で、フランス等の主要都市でなく、アジアにも目を向ける等、広島ならではの留学の在り方というのもあるかと思う。

(深見委員)

- ・ 今までの業務実績報告書では、割と国際学生寮「さくら」での取組内容がしっかりと記載されていたと思うが、今回はその辺りがトーンダウンしているように感じた。そういう意味で、国際交流に対する強度感が少し下がってきたのかなという印象を受けた。

(酒井委員長)

- ・ そのような意見があったということを、事務局から大学へ伝えてもらいたい。
- ・ では、小項目⑬については「A」評価としてよいか。【異議なし】

(ウ) 大項目⑩、小項目⑭「その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置」について

(酒井委員長)

- ・ 「国籍及び民族に関する不適切発言」は、国際問題にもなり得るので、徹底した措置をとっていく必要があると思い「C」評価としたが、そこは全体コメントで付言をし、評価としては「B」評価でも問題ないと思う。

(深見委員)

- ・ 教職員に対するハラスメント教育を徹底的に行う必要性は強く感じた。

(仮井委員)

- ・ ハラスメントについては、潜在的なものもある可能性があるので、相談しやすい体制を構築することが非常に重要だ。そういう意味で、コメントとして、学外や第三者への相談窓口の設定について記載させてもらった。

(長井委員)

- ・ 大学のホームページを見るとリーフレットも掲載されていたが、実際に問題が生じた際に相談窓口がきちんと機能するものであってほしい、学生等が使いやすいものであってほしいと思う。

(酒井委員長)

- ・ 敢えて「C」評価としたのも、今回のことをきっかけに、もう少し制度的にきちんと予防策を講じる等をしてもらいたいという思いからだ。このような事態が起こると、学生に対しても悪影響が出るので、教員だけでなく学生に対する教育等も徹底した方がよいと思う。

(橋本委員)

- ・ 追加で、トイレの洋式化ももちろんであるが、誰もが使いやすいユニバーサルトイレがもう少し各所にあってもよいのではないかという感想を持った。今の学生はそんなことにも敏感であるので、その辺りの対応も必要かと思う。
- ・ 施設面では、芸術資料館に水漏れがみられたが、これは博物館としては致命的なので、早急な対応が必要であると思う。

(酒井委員長)

- ・ では、今出た意見を事務局から大学に伝えてもらうこととして、大項目⑩、小項目⑭については「B」評価としてよいか。【異議なし】

イ 全体評価

(酒井委員長)

- ・ 大項目評価の結果を評価基準に照らすと、業務実績に関する全体評価は「A」となるが、どうか。【異議なし】

(2) 議事2について

ア 各項目の評価について

(ア) 小項目⑧「研究活動の活性化」について

(酒井委員長)

- ・ 中期目標期間全体として見た時に、令和6年度、令和7年度は「A」評価と伸びてきているので、見込評価としては「A」評価でもよいのではないかと思った。

(深見委員)

- ・ 小項目の更に下の細部化されたアからオまでの大学の自己評価を見ると、アは「a」評価だが、イ以降は「b」評価となっている。科研費の獲得に向けた努力は認めるが、研究全体として見たときに、科研費で測れる情報科学部以外の学部の活動はどうかというところがある。

(酒井委員長)

- ・ 確かに大学の自己評価が低い一方で、近年は評価が伸びてきているので、どのように評価してよいのかが悩ましい。

(橋本委員)

- ・ ウの芸術学部を取組については、芸術資料館を「指定施設（旧「博物館相当施設」）」に登録したことは、これにより他の美術館から展示品を借りることができ、大学独自で展覧会を行うことができるようになるので画期的なことであり、評価に値する。加えて、学芸員兼デジタルアーキビストを採用したという点も、活性化に向けてやるべきことをやっているという印象を受けた。大学の自己評価は低い（「b」）が、ウは「a」でよいと思うので、小項目⑧としても「A」評価でもよいと思う。

(酒井委員長)

- ・ ここの評価が悩ましいところではある。大型の研究費の獲得等もう少し努力が必要な部分もあるが、そのような点は全体コメントで指摘をすることとし、小項目⑧の評価としては、令和4年度以降の実績（過去の評価結果）を踏まえて「A」評価としてよいか。【異議なし】

(イ) 大項目③「研究」について

(酒井委員長)

- ・ 小項目⑧が「A」評価となり、大項目③の内訳小項目⑧、小項目⑨がいずれも「A」評価となったため、大項目③については「A」評価としてよいか。【異議なし】

(ウ) 小項目⑬「国際交流の推進」について

(酒井委員長)

- ・ 海外からの受入学生数が、残り2年あるものの、目標値に到達していないことを踏まえて「B」評価とした。

(長井委員)

- ・ 国際情勢等もあるので、数値だけをみて「B」評価とするのはどうかなという思いはあ

る。

(酒井委員長)

- ・ では、ここも多少対策を講じる必要があるということをコメントすることとし、小項目⑬の評価としては「A」評価としてよいか。【異議なし】

(エ) 大項目⑧、小項目⑰「財務内容の改善に関する目標を達成するためとすべき措置」について
(酒井委員長)

- ・ ここは、科研費等の外部資金獲得金額等が増えていることをどのように評価するかにかかっているかと思う。科研費等を獲得することによって多少は財務状況が改善されたと思うので「A」評価とした。一方で、評価できるのはこの点のみという面もある。

(長井委員)

- ・ 前回の評価委員会で説明があったが、自己収入の増加に向けては、授業料の増額ではなく科研費等を獲得するというのが基本となると思うので、その部分はもう少し頑張ってもらいたいという思いで「B」評価とした。

(酒井委員長)

- ・ では、科研費等の外部資金の獲得に向けた取組をもっと推進してもらいたいという意味を込めて、大項目⑧、小項目⑰については「B」評価としてよいか。【異議なし】

(カ) 大項目⑨、小項目⑱「自己点検、評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとすべき措置」について

(酒井委員長)

- ・ 大学の「評価理由等」の記載内容が、他の「A」評価の項目と比較して「こういう成果を挙げた」というような記載がなかったため「B」評価とした。

(仮井委員)

- ・ 形はできたが、成果はこれからという印象だが、今後の期待感のようなものはある。自己点検等については良く取り組まれているので、そこは評価できるかと思い、「A」評価とした。

(酒井委員長)

- ・ では、今後成果を挙げていただきたいというところで、大項目⑨、小項目⑱については「A」評価としてよいか。【異議なし】

(カ) 大項目⑩、小項目⑲「その他業務運営に関する重要目標を達成するためとすべき措置」について

(酒井委員長)

- ・ ハラスメントの問題に対して、もう少し積極的に取り組んでももらいたい。また、前回の評価委員会で大学から説明があったが、施設の経年劣化に対する修繕への対応ができていないというところは、何か問題が起きてからでは遅いので、もう少し深刻に対応してもらいたい。このような思いで「C」評価とした。

(仮井委員)

- ・ 私は「B」評価としたが、施設の経年劣化への対応については、大学側で対応できる部分もあるかと思うが、市の予算上の問題もあり、大学の努力だけで全てが解決できるわけではないかもしれない。ただ、少子化の時代の中で、今後学生を獲得していくためには、また、良い教員を獲得するためには、施設や、先ほどのハラスメントへの対応も含めた組

織体制等はとても大事なことだと思う。その点については、総論として、まだ努力が必要だと感じている。

(長井委員)

- ・ 私も「B」評価としたが、施設の経年劣化は問題であると思っており、コメントとして記載させてもらった。

(橋本委員)

- ・ 芸術資料館については、施設整備をきちんとやっておかないと指定施設の指定を取り消される可能性もあるので、しっかりと対応してもらいたい。施設全体として老朽化が進んでいるので、順次対応していかないと危険な部分があるなど感じた。また、開学した約 30 年前とは温度が異なるので、夏場の暑さ対策は必要だ。芸術学部の工房棟を視察した際にその必要性を感じたので、この辺りも検討課題である。
- ・ 市と協力して、大学を避難所だったり災害が生じた場合の拠点だったりにするということも公立大学の役割としてはあるかと思う。避難所となった場合には冷房が必要になるので、そのための予算を付けてしっかりと設備整備をすることも可能となるのではないかな。

(酒井委員長)

- ・ 施設整備については積極的に進めてもらうようにコメントに盛り込みたいと思う。
- ・ では、大項目⑩、小項目⑲については「B」評価としてよいか。【異議なし】

イ 全体評価

(酒井委員長)

- ・ 大項目評価の結果を評価基準に照らすと、業務実績に関する全体評価は「A」となるが、どうか。【異議なし】

ウ その他

(酒井委員長)

- ・ 全体評価コメントの作成に当たり、付け加えておきたい事項はあるか。

(仮井委員)

- ・ 総論的な話となるが、私立の大学は、学生の獲得に向けて、校舎等の設備面を充実させたり、PR 戦略を練ったりと色々手を打っているように感じる。公立大学の場合は、設備面の充実はなかなか難しい面があると思うが、広島の中での広島市立大学の位置やイメージなど、市民に向けてもっと積極的なPRをやっていないといけないと思っている。今後、少子化の時代の中でどのような戦略を展開するか、今後の 10 年間、20 年間でどういうところを目指していくのかというところの議論が必要ではないかと思う。

(深見委員)

- ・ 施設がきれいであるということは、学生が大学を評価するに当たって重要視される事項であると思う。

(橋本委員)

- ・ 今後の 18 歳人口減少への対策は当然必要だと思うが、市だけでは支えられないと思うので、色々な寄附の仕組みや資金を作るための仕組みが必要となってくるのではないかなと思っている。また、そのための専属の事務スタッフも必要となってくるのではないかなと思う。また、事務スタッフの業務のDX化やオフィス環境の整備等、優秀なスタッフを呼び込むための努力も必要だと思う。そのようにして優秀なスタッフを呼び込んで、学長の下資金集めに取り組む。今後、科研費の獲得だけでは持たないと思うので、科研費の獲得とその他の資金

の獲得の両軸でやっていった方がよいのではないかと思います。

- また、地域の方が大学を訪れて、大学と地域の方が一体となって活動できるような取組があると、大学の魅力が向上すると思うし、高校生等の学生が大学内部を見ることができる機会が増えるのではないかと思います。ただ、そのようなことを行おうとすると、そのためのスタッフが必要となるので、その辺りは、市も含めて考えていかないといけないのではないかと思います。

(長井委員)

- 広島の公立大学である以上は、「平和」への取組は大きな柱となるので、当該取組の内容を情報発信するということが引き続き重要だと思う。

以上